

皮膚科のトリビア

247

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●某製薬会社主催Webセミナーから

令和5年10月1日

蕁麻疹における抗ヒスタミン薬の不応予測因子

抗ヒスタミン薬に反応しない慢性特発性蕁麻疹患者の特徴はエビデンスの高い因子としては、UCT/UAS7が高い、CRP高値、D-dimer上昇があげられる。その他エビデンスは低い、内服ステロイド使用歴があること、刺激誘発性蕁麻疹の併発があること、QOLスコアが低いことが関連すると考えられる。

一言コメント

「以前から凝固系の亢進との関連は指摘されているが、皮膚症状、つまり膨疹をみて凝固系の亢進がありそうだと想像できた経験はない。CRPが常に高いという患者にも遭遇しないが、初回の検査には含めておくべきだろうと思った。」

●CSU Expert meeting 2024から

令和6年10月14日

抗c-kit抗体製剤が難治性の慢性特発性蕁麻疹に有効

KIT受容体に特異的に結合するバルゾルボリマブは、stem cell factorによるKITの活性化を阻害することで肥満細胞を枯渇させる作用機序をもつ。UAS7が16以上の慢性特発性蕁麻疹(chronic spontaneous urticaria: CSU)患者(44%でオマリズマブ治療の既往あり)に対して、4週ごとに投与

した結果、投与開始から1週間以内に症状の迅速な軽減が観察され、12週間にわたって持続した。バルゾルボリマブ投与群の71%が良好なコントロール(UAS7 $\leq$ 6)を達成し、57%が完全奏効(UAS7=0)を達成した。主な有害事象は毛髪の色が抜けることだった。また、本研究では、疾患活動性の変化がトリプターゼ抑制の動態と並行していたことが観察され、これは肥満細胞阻害の指標となる重要な所見である。また、以前にオマリズマブによる治療を受けた患者と受けていない患者で、バルゾルボリマブに対する反応は同様であった。

一言コメント

「KIT遺伝子変異は肥満細胞症でみられることがあるので、難治性CSU以上に理にかなった治療薬になると期待できる。」

●日本皮膚科学会第913回東京地方会から

令和6年10月19日

ジェノベーゼ摂取による松の実アレルギー

10歳以下の男児、ジェノベーゼパスタを摂食後に、全身の蕁麻疹、嘔吐、咳嗽が出現した。プリックテストでは松の実が陽性、クルミ、ピーナッツは陰性だった。イタリア料理に欠かせないジェノベーゼは、バジリコに松の実、ニンニク、粉チーズ、オリーブ油を加えたソース。ただし製品によっては松の木の代わりにカシューナッツ、ピーナッツ、アーモンドなどほかのナッツ類が代用されている場合があり、実際にバジルソースが含まれていたピザ摂

取後に生じたアレルギーで、カシューナッツが原因だった症例もあり、注意が必要である。

一言コメント

「まず、ジェノベーゼという言葉の定義を知らなかった。バジルソースと呼ばれているものの多くはジェノベーゼだが、松の実やチーズを含まないものもあるとのこと。食物アレルギーを極めるには調味料の素材を知っておく必要がある。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会から

令和6年11月17日

ink spot lentigoとは

ink spot lentigoはreticulated black solar lentigoとも呼ばれ、日光黒子のまれな亜型である。露光部位に限られて生じ、多くは孤発性の小型で均一な色調の浸潤を触れない黒色斑である。ダーモスコピーでは濃褐色から黒色の定型的色素ネットワークを呈する。病理は単純黒子の所見で、延長する表皮索の先端にメラニン沈着が優位に分布するskip areaがみられる。メラノサイトは表皮基底層で軽度増加しているが、明らかな異型性はない。ink spot lentigoは濃い黒色調のため臨床的には表在拡大型黒色腫との鑑別が問題となるが、ダーモスコピーで鑑別できる。

一言コメント

「百聞は一見にしかず。ダーモスコピーの所見を覚えておくのがよい。白人に多いようだがskin type IIIの黄色人種にもあるとのこと。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会から

令和6年11月17日

GeneSoC[®] miniによるPOCT

梅毒の講演の中に出てきた聞き慣れない横文字。POCTとは“Point of Care Testing”のことで、臨床現場即時検査と呼ばれ、外来やベッドサイドで行う即時検査。それに用いるのが、GeneSoC[®] miniという機器である。リアルタイムPCR法に基づいた、マイクロ流路型サーマルサイクル技術により、短時間

(5～15分程度)で試料中のターゲット遺伝子を解析することが可能。SARS-CoV-2、A型・B型インフルエンザウイルス、百日咳菌、淋菌、クラミジア・トラコマチス、HIV、梅毒で利用可能。

一言コメント

「これは気になる商品である。微生物核酸同定・定量検査で保険収載もあるようだが、算定のための要件があってハードルが高そうである。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会から

令和6年11月17日

近赤外線功罪と応用

近赤外線(near-infrared : NIR)は太陽光の42%を占める780～1,400 nmの電磁波で、65%が真皮に、17%が皮下組織に浸達する。ハムスター耳介皮膚への照射では、コラーゲンの増生、線維束の乱れを誘発し、皮脂腺の肥大化や表皮バリア機能の低下も観察され、光老化に関わっていることが証明された。その一方で、コラーゲン、エラスチンの産生を促進させるため、美容領域ではシワの改善に利用されている。また、血管を拡張させ血流が増加するため養毛にも利用可能である。

一言コメント

「全体に当たってはだめで、ポイントで当てるとよい、と理解した。生物学的特性を明らかにして、とくに美容領域においてポジティブな利用が進んでいくのだろうと感じた。」